

神邊（かんべ）コレクション受贈記念

よみがえる浮世絵スピリット

——明治の開化絵から新版画まで——

Commemorating the Donation of the Kanbe Collection: The Reviving Spirit of Ukiyo-e

—From Meiji Era Kaika-e to Shin-hanga—

1. 趣旨：

江戸時代に一世を風靡した浮世絵は、明治時代に舶来の石版画や写真技術の実用化が進むと、次第にその役割を取って代わられるようになります。

激動の時代において、明治の浮世絵師は文明開化によって一変する社会を捉える開化絵や、さまざまな事件や戦争を即時的に伝える報道絵など、新たな分野を開拓しました。しかしながら、浮世絵は明治 20 年代頃より衰退の一途をたどり、多色摺木版は挿絵の分野で命脈を保つことになります。明治中期には、色鮮やかな木版口絵が文芸雑誌や小説の扉絵として書籍の巻頭に折り込まれ、大衆の支持を得ました。そして大正時代には、版元・渡邊庄三郎が浮世絵の復興と革新に取り組み、浮世絵の伝統技術と分業制度を活かしながら、清新な新版画の数々を世に送り出しました。

日本の多色摺木版は、機械文明化の進む近代の逆境をいかにして超克し、「浮世絵スピリット」とも呼びうる固有の伝統技術や美意識を継承、あるいは進化させてきたのでしょうか。本展は、近年当館にコレクションの一部を寄贈された神邊一善（かんべかずよし）氏の旧蔵品を中心として、近代木版画の軌跡を「明治の浮世絵」「木版口絵」「新版画」の 3 章構成で検証する試みです。

※プレスリリースに掲載の画像の使用については、東京富士美術館ホームページのプレスリリース
広報画像申請フォームをご確認ください。画像の URL をすぐに入手できます。

2. 展示構成：

プロローグ——浮世絵芸術の真髄

浮世絵版画のなかでも多色摺による錦絵は高度な表現を成し遂げ、江戸時代後期に隆盛を極めました。葛飾北斎、歌川広重、歌川国芳などといった稀代の絵師と、優れた技術を有する職人、それを束ねる版元の分業によって生み出される錦絵は、同時代の西洋の画家をも魅了し、後世にも多大な影響を及ぼしました。本展の導入部では、当館が所蔵する代表的な作品を通して、江戸の浮世絵芸術の真髄をご堪能いただきます。



葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》

天保元～3年（1830～32）頃

東京富士美術館蔵

第1章 明治の浮世絵——文明開化と江戸の残照

明治時代が幕を開けると、絵師たちは激動の世相を活写しました。文明開化を題材とする開化絵には、擬洋風建築、鉄道、橋梁、洋装の人物や人力車の行き交う街並みなどが描かれ、大きく変貌した東京の風景を伝えています。開化絵は舶来の化学顔料を由来とする鮮烈な赤や紫色が特徴的ですが、一方で小林清親のように、西洋画の手法を取り入れ、繊細な感性で煌めく光の表情を捉える者もあらわれました。

明治新政府のもと西洋化が奨励されると、洋装の女性が憧れの的となり、錦絵にも登場するようになります。その一方で、去りゆく江戸を懐古する風潮が明治20年代頃に高まり、江戸時代の女性風俗を描く美人画が次々と登場しました。本章では、文明開化と江戸への懐古という、相反するエネルギーによって生み出された明治の浮世絵を展覧します。



小林清親《海運橋 第一銀行雪中》

明治9年（1876）頃

横浜美術館（加藤栄一氏寄贈）[前期展示]



月岡芳年《東京自慢十二月 三月 吉原の桜 尾州楼長尾》

明治 13 年 (1880)

東京富士美術館蔵 (神邊コレクション)



月岡芳年《風俗三十二相 遊歩がしたさう明治年間妻君之風俗》

明治 21 年 (1888)

太田記念美術館蔵 [前期展示]



水野年方《三十六佳撰 螢狩 天明頃婦人》

明治 24 年 (1891)

東京富士美術館蔵 (神邊コレクション)

第2章 木版口絵——掌でひらく、多色摺木版の美

明治時代は、新たな印刷技術が導入され洋装本が主流になるなど、印刷や書物のあり方が大きく変化しました。そうしたなか、明治20年代中頃には、多色摺木版の口絵が書物の巻頭を飾るようになります。物語の登場人物や世界観を視覚的に紹介する木版口絵は広く大衆に受け入れられ、出版社は美しい口絵を呼び物にしました。とりわけ、博文館による文芸雑誌『文芸倶楽部』は高い人気を誇り、武内桂舟、水野年方、梶田半古、鏑木清方らが手がけたモダンな女性像は、時代の気分をも伝えています。書籍に折り込まれるという独特の形態により、木版口絵は価値の低いものとみなされてきましたが、そこには高い水準で保持された伝統木版の技術が凝縮されています。本章では、神邊一善氏が収集した木版口絵の優品を紹介し、その知られざる魅力を探ります。



梶田半古《菊のかほり》（『文芸倶楽部』11巻13号口絵）

明治38年（1905）

八王子市夢美術館蔵（神邊コレクション）



梶田半古《胡蝶（『文芸倶楽部』 13 卷 8 号口絵）》

明治 40 年（1907）

八王子市夢美術館蔵（神邊コレクション）



鈴木華邨《無題（『文芸倶楽部』15巻12号口絵）》

明治40年（1907）

東京富士美術館蔵（神邊コレクション）

第3章 新版画——浮世絵リバイバル！伝統技術の昇華

新版画とは、大正から昭和前期にかけて、錦絵の復興と革新を目指す版元・渡邊庄三郎を中心に制作された一連の木版画作品のことを指します。伝統的な分業体制のもと、錦絵の伝統技術と気鋭の画家たちの近代的感覚を融合し、高い芸術性を備えた木版画の創出を目指した庄三郎の取り組みは、停滞していた当時の浮世絵界に新たな息吹をもたらしました。庄三郎のもとには、訪日外国人画家や、鐫木清方門下の伊東深水、川瀬巴水、洋画家系の橋口五葉や吉田博など多彩な画家が集い、他の版元の参入もあって、バラエティに富んだ作品が次々と生み出されました。本章では、美人画と風景画を中心として、瑞々しい感性に彩られた新版画をご覧ください。



橋口五葉《髪梳ける女》

大正9年（1920）

町田市立国際版画美術館蔵【後期展示】



小早川清 《ダンサー》

昭和7年（1932）

東京富士美術館蔵

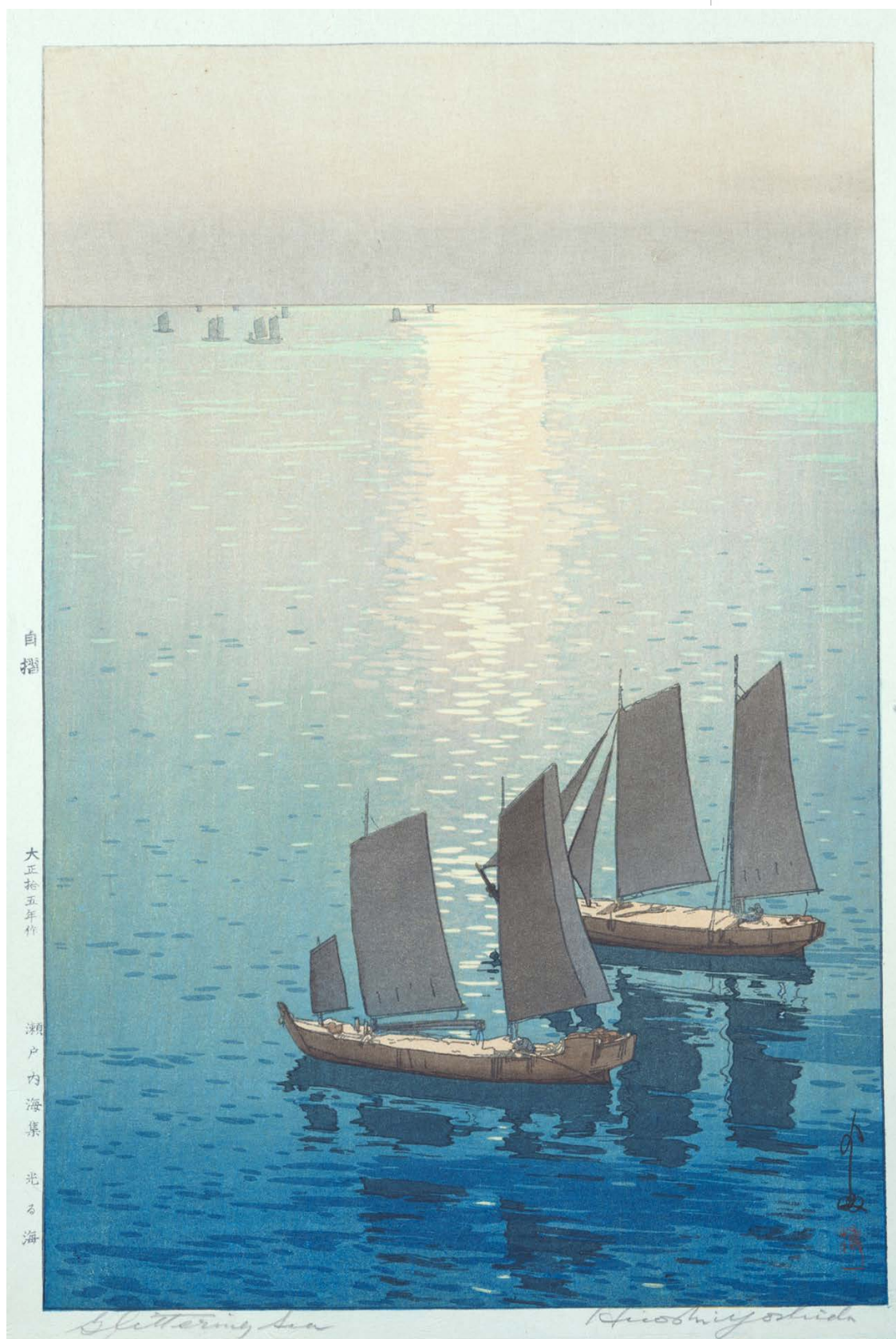


川瀬巴水《東京二十景 芝増上寺》

大正 14 年（1925）

版元：渡邊木版美術画舗

町田市立国際版画美術館蔵【前期展示】



吉田博《瀬戸内海集 光る海》

大正 15 年 (1926)

東京富士美術館蔵

3. 開催概要

展覧会名： 神邊コレクション受贈記念 よみがえる浮世絵スピリット

——明治の開化絵から新版画まで

Commemorating the Donation of the Kanbe Collection: The Reviving Spirit of Ukiyo-e—
From Meiji Era Kaika-e to Shin-hanga

同時開催：西洋絵画 ルネサンスから 20 世紀まで（新館／常設展示室 第 1-6 室）

会 期： 2026（令和 8）年 4 月 12 日（日）～6 月 21 日（日）

前期： 4 月 12 日（日）～5 月 17 日（日） ※36 日間

後期： 5 月 19 日（火）～6 月 21 日（日） ※34 日間

休館日： 月曜日、5 月 7 日（水）

※5 月 4 日（月・祝）、5 月 5 日（火・祝）5 月 6 日（水・振替休日）は開館。

開館時間：10:00～17:00（16:30 受付終了）

会 場：東京富士美術館(〒192-0016 東京都八王子市谷野町 492-1) 本館／企画展示室

入場料金： 大人1,500(1,200)円、大高生900(800)円、 中小生500(400)円、未就学児無料

※全ての展示室をご覧になれます

※（ ）内は各種割引料金 [20 名以上の団体、65 歳以上の方、当館公式 SNS 登録者ほか]

※土曜日は中小生無料

※障がい者、付添者 1 名は通常料金の半額 [証明書をご提示ください]

主 催： 東京富士美術館

後 援： 八王子市、八王子市教育委員会、ジェイコム東京 八王子・日野局

出品点数： 220 点

出品作品： 当館所蔵作品、首都圏美術館・博物館（7 館）からの借用作品

関連イベント：講演会「渡邊版新版画の誕生とその制作風景」

日時：5 月 6 日（水・振替休日）14:00～

講師：渡邊 章一郎氏（渡邊木版美術画舗 代表取締役）

東京富士美術館について

当館は 1983 年 11 月、東京・八王子市に設立された総合的な美術館です。

コレクションは日本・東洋西洋の各国、各時代の絵画・版画・写真・彫刻・陶磁・漆工・武具・刀剣・メダルなど様々なジャンルの作品約 30,000 点で形成されています。

「世界を語る美術館」を“永遠の指針”としてこれまで各国地域の優れた文化を新しい視点から紹介する海外文化交流特別展を国内外で活発に開催し、1990 年には日本の外務省より「外務大臣表彰」を受彰。2008 年には新館がオープンし、常設展示室ではルネサンスからバロック・ロココ・新古典主義・ロマン主義を経て、印象派・現代にまで至る西洋絵画 500 年の油彩画コレクションが一望できるようになりました。



問い合わせ先：TEL 042-691-4511 FAX 042-691-4623

E-mail: toiawase@fujibi.or.jp

担当者：東京富士美術館 赤須 清美（学芸員）平野 賢一（副館長）

連絡先 TEL. 042-691-4826（学芸部直通）

E-mail: akasu@fujibi.or.jp hirano@fujibi.or.jp